

第4回 千葉県総合教育会議における主な意見

「愛情と熱意にあふれた質の高い教員の育成」について

視点1 教員としての高い適性を持った人材の育成	・教員自身が自分を磨く環境をつくり、学び続ける教員を育ていく学校づくりをするべき。そのような環境の中で教員は研修を活用し、自己評価力・人間力を高めていくべき。校種を超えた研修も重要。	金本委員
	・教員になってからの努力が大切。学び続ける教師の育成や校長等のリーダー研修を進めるべき。	野口委員
	・教員志望者が、学生時代に教員を一生の仕事と考えられるかどうかを確かめることのできる「場」の提供が重要。	上西委員
視点2 個々の教員の授業力・指導力の向上	・「学ぶ」と「教える」が対等のコミュニケーションとなるような研修のあり方を考えていくべき。教員が専門性を高めるための校内の体制づくりが大切。内容的には、キャリア教育も含めて、教育の方針・目的を持てるようにするための取組が必要。	金本委員
	・若い教員には道徳的な面をはじめ、具体的、マニュアル的な内容を繰り返し伝えるべき。また、相談しやすい場を設定するべき。日々教育に邁進する一方、心身の疲労蓄積を自覚しにくい40、50代の教員に対するケアのためにも、早期からのメンタルサポートの仕組みを充実させていくべき。	佐藤委員
	・授業力、指導力の内実は「伝達」ではなく「感化」。技術巧者の育成に走りやすいことを警戒したい。信頼と尊敬に加えて慕われる教師が、高い授業力・指導力の持ち主である。	野口委員
	・体育の授業マイスター認定事業などで、県独自の認定試験などを設け、もう一步高みを目指してもらおうという取組をしてはどうか。体育に限らず、他の教科においても同様。	京谷委員
	・研修では、自分と全く異なった逆の立場に身をおくような経験をすることも効果があり、人間の幅を広げることにつながる。	森田知事
視点3 学校全体の教育力の向上	・総合計画、教育振興基本計画に掲げる学校・家庭・地域が連携する「チームスピリット」を踏まえて、広い視点で千葉県版の「チーム学校」づくりに取り組んでいきたい。	内藤教育長
	・ALTの配置人数を増やし、子どもたちのグローバル化への対応力を高めていくべき。	京谷委員
	・行政が必要な人材を配置するにあたって、学校も必要性を発信し、そのような学校を地域が支える環境づくりが重要。	金本委員
	・専門職間や教員との連携と継続性が重要。連携にあたっては、職員同士が直接顔をみて、話すことが、より安定した支援につながる。	佐藤委員
	・専門人材の活用は重要だが、基本は子どもに直接関わる教員の資質向上が重要。「研修」は「研究」と「修養」であるが、人間力を高める「修養」についても力を入れるべき。	野口委員

今後の総合教育会議の進め方について

・大綱が、県全体の教育の中で具体的に実現されていく状況や過程を共有するための議論を続ける必要がある。また、今後の議題としては、本日のような協議題に加えて知事部局と教育庁が連携して当たる事項の調整議題、緊急招集議題が考えられる。	金本委員
・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、県内の学校・児童生徒がどう関わるかを協議する場があるとよい。	京谷委員